

県北新名所案内①

郷土玩具でみんな笑顔に！

「よりみちぼっこ」（三次市吉舎町）

月橋修彦^{のぶひこ}さん（43歳）、由理さん（41歳）夫妻が、広島市から吉舎町上安田の古民家に移住、農業を含めた自然の中



玄関に入ると、大小さまざまな郷土玩具が目に入る。三次人形や作家モノのどっしりしたこけし、だるま、作家モノの張り子、出雲の華やかな色彩の大きな鯛車、木地玩具などが展示されている。成犬ほどもある張り子の虎がゆらゆらと首を振っている。島根県郷土館で行われた企画展「昔のおもちゃ展」では、展示品を貸し出したこともあるという。

郷土玩具はこの時期、年賀状や切手のデザインなどでよく目にすることが多い。神社の授与品にもなっていて、「縁起物」として江戸時代から親しまれてきた。しかし、実際の郷土玩具は後継者が見つからないことから、身近で見ることもしなくなっている。

「観光玩具というものもあるんです。郷土玩具は、こけしのように伝統工芸として作品も大切にされてきましたが、観光玩具の方は評価もされなかったもので、残っているものが少ないんです」

と修彦さん。松ぼっくりを利用した置物や貝殻製の人形などのお土産品が、ガラスケースに陳列されている。ひと昔前に、旅先の土産物屋で売られていた廉価な商品だ。地域性や世相が誇張されているものも多く、眺めているだけで懐かしい気持ちになってくる。

修彦さんが郷土玩具に出会ったのは、東京に住んでいた子どもの頃。仲見世商店街にある「助六」という店に入った。江戸趣味小玩具、江戸時代から継承されている職人たちの精緻な技巧に魅了された。家族で買い集めていたという。「展示だけではなく、販売もしたいんです」

月橋夫妻の夢はどんどん広がっている。

郷土玩具は全国にあり、月橋夫妻は各地の作家のもとを訪ね歩いていく。実際に作家に会って、一緒に何かできることはないかと話をしている。

三次には土人形の窯元や人形作家の人形館がある。よりみちぼっこでは、三次人形はもちろん、全国から寄贈された土人形が展示されている。日本の伝統文化を守りたい、郷土玩具のことを調べているうちに、その想いが次第に強くなったという。

赤べこやだるま、獅子の赤色は厄除けの効果があると言われており、子供が健康やかに育ってほしいとの願い

が込められている。それぞれの郷土玩具には歴史と文化があり、民俗学の分野に踏み入るほどに奥が深い。

修彦さんの本業はイラストレーター、ミュージシャンとコラボして、音楽に合わせて舞台上で絵を描くというパフォーミングアーツが人気。由理さんは、地域おこし協力隊の活動をしながら、天然素材を使った手芸品とオリジナルグッズの製作&販売を手掛けている。郷土玩具のユニークな色彩やデザインは、それぞれの仕事にも活かされているという。

「郷土玩具を見ていただいてお茶をしながら、一緒に話をして楽しんでもらいたいんです」

郷土玩具の話をしてしているうちに、あっという間に二時間近くが経過していた。入館料はコーヒーとお茶菓子付で五百円。それはすべて、郷土玩具保全の活動資金に使われる。ただし、事前予約が必要だ。

【連絡先】

☎080 (3875) 3109

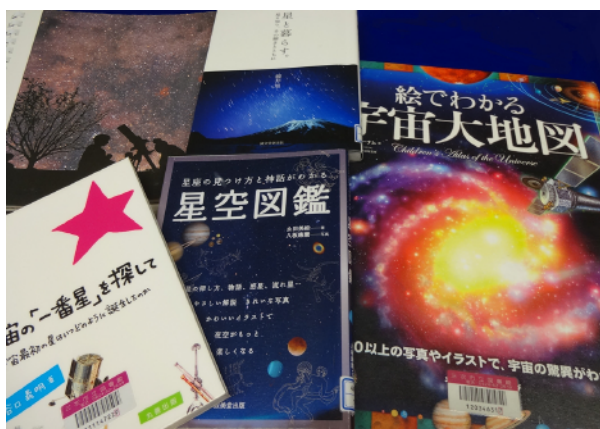
二度目の訪問の時には、さまざまな古い神楽の面が増えていた。地元の人から「この方が面も喜ぶから」と寄贈してくれたという。かくいうわたし（記者）の亡父が集めた観光玩具も仲間入り。みんな誇らしそうに並んでいる。

図書館員ノート ①7

「見上げてみれば」

建物の外は寒い寒いと思わず口から漏れてしまいそうなほど、冷え込んできた。早く暖かい部屋に入りたいと思いつきながら、ふと、見上げた夜空はとて澄んでいてきれいだった。

冬は天体観測にもってこいの時期だ。空気が澄んでいるから、星空がいつもより綺麗に見える。また、



オリオン座や子犬座など、夏には見られない星座も見えるようになる。

四季を通して楽しめる天体観測だが、冬のピリツと張り詰めた空気の中、輝く星空を見上げる事が私は好きだった。

そうは言っても、それは子どもの時の話で、今の私は寒い外にはあまり出たくない。あの頃の、星を眺める為だけに服を着込んで冬の外に出ていた行動力は、どこへ行ってしまったのか……。

ただ、子どもの時と違い、別の楽しみ方ができるようになった。それは、少し難しめの天文学の本を読むことだ。昔の私は、星座の位置や名前の由来についてのことばかり読んで、流れ星やオーロラが何故起きるのか、全くもって理解していなかった。

今、改めて読むと、何故これが難

しいと思ったのかと首を傾げたくなる。本当に、何故こんな簡単な入門書さえ読めなかったのか……。とは言え、それまで読めなかったものが読めたことで自分の成長を知ることでもできた。そして新しい知識と新しい疑問も増えた。知るといふ喜びを得るのはこういう時なのであろう。

もう一つ、これは子どもの頃から変わらないが、天体の写真集を見ることも好きだ。世界中の夜空の写真、月の裏側、土星や木星といった惑星など、自分たちが肉眼では見えない星の世界を、写し出してくれる。寒い外へ出ずとも家の中で星空が楽しめる。

図書館にも天体に関する本はたくさん置いてある。もし、興味がわいたら写真集だけでもいいので手に取って見て欲しい。もしくは、少しだけいいので夜に空を見上げて欲しい。きらきらと優しく輝く星があなたを迎えてくれると思う。

三次市立図書館 M・I

池波正太郎『鬼平犯科帳』 ——タイムスリップさせる力

今も読み継がれている時代小説のシリーズものと言えば、池波正太郎『鬼平犯科帳』（文春文庫、24巻）が真っ先に挙げられるでしょう。『鞍馬天狗』とはまたひと味違った吸引力は、どこからくるのでしょうか。

1つには江戸の街にたやすくタイムスリップさせてくれるからではないかと思えます。

「鬼の平蔵（鬼平）」と呼ばれる長谷川平蔵という実在の人物をモデルにしているのが、時代は江戸の後期、寛政の改革（1787〜93年）の頃ということになります。関八州（関東一円）の火付け、盗賊を取り締まる火盗改方（あらためかた）の長官、長谷川平蔵の活躍が、読み切り中編で展開します。

特徴は、捜索に当たる与力（上役）、同心（刑事）、密偵（協力者）たちが同じ顔ぶれで登場することです。江戸城東にある鬼平の役宅を中心に、江戸の地名もふんだんに使われます。

たとえて言えば、忠勤な筆頭与力の佐嶋忠介、ちよつと遊び好きな兎

忠（うさちゅう）こと木村忠吾は同心、鬼平の聡明な妻・久栄、身を粉にして尽くす元盗人の密偵「小房の糸八」、

る感覚になります。

東京・浅草生まれの作家池波正太郎が67年、鬼平を主人公にした作品を書いて好評だったのでこのシリーズが始まりました。22年間に計135話。テレビドラマ化にもされ、松本幸四郎や中村吉右衛門の名優がは

また読んでみたい本②② —— 青年たちに

音谷 健郎



古今東西の文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の青年たちにも読んでもらいたいと思います。毎月1冊ずつ紹介しています。

【鬼平犯科帳 表紙】

第22回は、池波正太郎の『鬼平犯科帳』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を経て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

元盗賊仲間の「おまさ」たち、登場しただけで旧知の人に会ったような気分になります。行きつけの川魚料理「伊勢屋」をはじめ蕎麦屋、小料理屋などに繰り出すと江戸名物の食

話の筋は変化に富んでいるのに驚きと鬼平の役宅周辺にスツとワープす

まり役として鬼平を演じ、長期連続になりました。

初期の「谷中いろは茶屋」「埋蔵金千両」から「女密偵女賊」「誘拐」まで、話の筋は変化に富んでいるのに驚きと鬼平の役宅周辺にスツとワープす

み、探索に乗り出すと、おまさ誘拐されます。次々といくつかの事件が絡まって、いつになく複雑な展開。鬼平の「勘」が冴え、いよいよ解決へ向かうかというところで中断。「作者逝去のため未完」のことがわりが痛々しいです。

念のためですが、実在の長谷川平蔵がここまで活躍したわけではありません。大半はフィクションです。そんなことより、ボスを中心に、主任や刑事がチームワークよろしく盗人を追いつめる様子が、現代のサラリーマンの願望を満たすのです。

その上、TVドラマの「大岡裁き」が「……によって、獄門！」と、厳しく裁定をくだし、読者の溜飲を下げさせるのに対し、鬼平はなにかと理由をつけて罪一等を減じるなど、さばけた計らいをするのです。読む方としては、その余韻も楽しみみです。

いま、読書界は刑事ミステリーと並んで時代小説がもてはやされています。時代小説は作者がそれぞれに独自の世界を構築して、固定読者をつかんでいるようです。昨今の時代小説は、“大人のメルヘン”だと思ふと、隆盛ぶりが納得出来るような気がします。

虫と草木と人びとと⑩ 中村慎吾

「母と子のためのコン虫採集」前編

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

現代っ子は博識

近ごろ、本屋をのぞくと子ども向けのコン虫の本や図鑑がずいぶん目につきます。どれも美しい絵や写真がふんだんに使われ、内容も子ども向きとは思えないほど、専門的な知識や新しく発見されたことが盛りこ

まれていきます。どうせ、子ども向きの本だからとたかをくくっていましたが、どうしてどうして子ども向きのコン虫の本や図鑑を虫に興味を持って調べている大人も素通りできなくなりました。

近ごろの子どもは外国の美しい虫をみて、これは南米産のモルフォチョ

ウだ、これは世界一のカブトムシ、オオサマゴライアスだ、などとよく知っています。

デパートで小づかいをはいてカブトムシやクワガタムシを買うことを卒業した子どもたちは小づかいを貯めて、切手集めよろしく外国の美しいチョウや甲虫を標本商から買いためて標本箱にかざり、楽しむようになってきているようです。

買わずに捕ろう

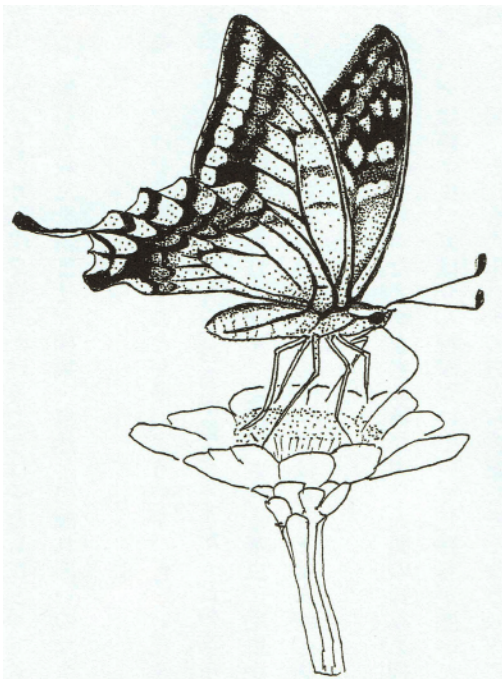
むかしの子どもがヤンマ釣りやセミ捕りに興じて日の暮れるのも忘れ、遅く家に帰って母親にひどく叱られていたころとはすっかりようすが変わってしまいました。むかしのように公園の池や溜池でたやすくヤンマを釣ることも、ゲンゴロウやタガメ、タイコウチを捕らえて遊ぶこともできなくなり、虫もめっきり減ってむかしのように捕れなくなっています。

しかし、ほんとうに虫はいなくなつたのでしょうか。ちよつと気をつけて身のまわりを見ると何もお金を出して虫を買うほどのことはありません。四季を通じて身のまわりにも美しい虫たちがずい分いたものです。

二五〇種を超すチョウ

日本は南北に長い国ですから、ずい分多くのチョウがすみついていて、その種類は二百五十種以上に及んでいます。日本とほぼ同じ面積のイギリスには約七十種しかチョウがいませんから、日本にはずい分いろいろなチョウがいることがわかりでしょう。広島県内には日本に分布するチョウの約半分、百三十種ばかりのチョウがいることが「広島虫の会」の人々の努力でつきとめられています。

広島県内にすんでいるチョウの種類がわかったので広島県のチョウの



ヒャクニチソウの蜜を吸うアゲハチョウ(原図)

本を作りたいと思うのですが、どうしても今のところ本が作れそうにないのです。それはどこでも誰でも普通に見かけられるチョウ、例えばモンシロチョウとか、ベニシジミといった身のまわりでよく見かけるチョウのことがよくわからないのです。

地域で違う生態

普通によく見かけるモンシロチョウのことがよくわからないと言うとそんなばかな……と思われる人は多いと思われます。凶鑑にキャベツなどアブラナ科の植物を幼虫が食べるなどと書いてあるのに、何がわからないと言うのだろうと思われるのも無理ありません。しかし、広島市ではキャベツだけを青虫は食べているのだろうか。キャベツのない時期はどうしているのだろう。春、いつごろから現れて、秋いつごろまでいるのだろう。そして、一年の間、何回その一生をくりかえしているのだろう……と生活のことへ目を向けるとほんとうのことは何ひとつわかっていないといえます。広島市と呉市とではモンシロチョウの生活が同じとはいえません。北の西城町や芸北町となると広島市あたりとずいぶん違

うはずです。こうして広島県内でのことがはっきりわかっていない限り、広島県のチョウの本は生まれそうにもありません。

標本にして調査

珍しいチョウを求めて、夏休みの間、遠くの山へ出かけることも楽しいでしょうが身近なところで、いつも見ているチョウを捕まえてきれいな標本に仕上げ、まず自分の身の回りにすんでいるチョウの種類を調べてみることも大切なことです。

同じ種類でも季節を変えて数多く集め、標本に仕上げると、模様や色、大きさに差異があつて、いろいろと凶鑑では気がつかなかったことに気づきます。同じ種類でも春から秋へ時期によつてずいぶん差があることがわかり、研究も深まって楽しみが増してきます。さらに標本箱に残るこのチョウはイヌガラシにいた青虫を育てたもの、これは庭の雑草カタバミに産みつけられていた卵から育つたもの、これはヒヤクニチソウの赤い花の蜜を吸いに来いたチョウなどと、生活を解き明かしていくうちに集められた標本は、何にも増して大切な宝物です。

郷土の本棚③

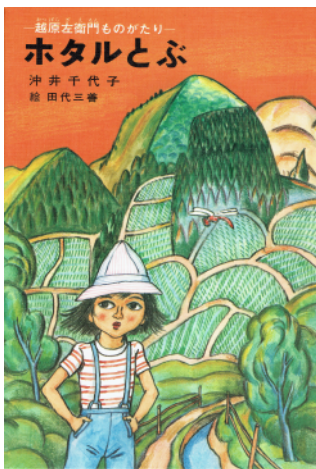
「ホタルとぶ」

沖井千代子 著

おつぱらぎえもん
越原左衛門ものがたりの第二弾。出版当時の紹介記事が中国新聞に載っている。

『この物語は昭和三十年代に、比和町に現実に起こった事件を下敷きにした。当時、広島県下の農村は収穫向上のための農薬散布に積極的になり組み、県の補助金も出てヘリコプターも出勤散布するの

が常識だった。だが、比和町だけは町の方針として「農薬は一切使わない」という当時としては非常識な決定をして、せっかくの補助金もけり、周りの町村のもの笑いとなっていた。』



病気知らずだった一本すぎのおじいさんが「江戸わづらい」になつたという。心配したあやちゃん、しぶるおじいさんを説得して山田先生の医院に連れて行く。「ピータランの江戸わづらい」（ビタミ不足の脚気）だと思ひ込んでいたおじいさんの病気には、恐ろしい原因がひそんでいた――。

昭和三十六年、県北部の農村地帯にまいまいがの異常発生が起こつた。県と町村はさらに強力な農薬散布で害虫被害を防ごうとするが、比和町だけはそれも拒絶。周辺の町村は、やつぱり田舎者の越原左衛門だと笑ひものにするが、意外な結末が待っていた。読了して思わず「アッパレ左衛門！」と叫んでしまった。

昭和五十一年講談社刊。「ひばだこがんばる」と共に、どら書房の「閲覧本コーナー」で読むことができます。

「これも不倫なのだろうか」

苦笑を浮かべてわたしは自問する。八十を過ぎて、もう孫が何人もいるというのに、妻には内緒で昔の女性の面影を追いかけている。

(例えば、残酷だ……)

わたしは皺だらけの爺さんになってしまったのに、眼を閉じた瞼に映る女性は二十歳前の美しい姿のままなのである。

岡山駅から伯備線の特急やくもに乗って新見まで来たのはいいが、それからの電車の連絡が悪い。備中神代で芸備線に乗り換えるのに、二時間近く待たされた。

まるで時間を遡るように、あの日と同じルートを逆行している。一両しかない車両の乗客はわたし一人だけだ。窓の外はすっかり夜の闇に閉ざされている。間断なく降り続けている雪が、車窓のガラスをたたきつけてだ。

あの日も雪だった……。しかし、当時のことを思い出そうとすると頭痛がしてきて、靄がかかったように記憶がさだかでない。罪悪感だけは、ずっと胸の奥に抱えて生きてきた。大切な人を、幸せにすることができなかった。

「僕はもう、恋愛することはできな

いんだと思っています。僕の胸の中には、ある女性が住んでいます。これからも消えることはありません。その人以上に、他の女性を好きになることはないと思います」

勤め先の上司の半ば業務命令で、仕方なく受け入れたお見合いだった。こんな気持では相手に失礼だと、退社を覚悟してお見合い相手に打ち明けた。富美子はさすがに驚いた顔を

の分、あなたのことが大好きになるように、わたしの方が頑張ります」

自分の過去をすべて話した。それでもわたしの気持は変わらないと富美子は言ってくれた。一晩、寝ないで悩んだ。正直、会ったときから富美子の笑顔に魅了されていた。日向のような明るい笑顔だった。わたしの心の闇が、富美子の笑顔を求めたのかもしれない。

「旅路」

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 20

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

していたが、小さく頷いて笑顔を見せた。

「正直な方ですね」

てつきり断られるだろうと思っていたら、先方からオッケーの連絡がきた。

「本当に、僕でいいのですか？」

驚いて、富美子呼び出して確認した。

「わたしは二番目でもいいんです。そ

終点の備後落合駅に到着した。雪が降り積もったホームに降り立つと、人影が見えた。質素な紺の着物を着ている。頭にかぶった桜色のショールに、雪が降り積もっている。

「やあ、ずいぶん待たせたようだね」
声をかけると、美和が寂しそうに笑った。

(この人は、本当に旅に出ているんだ

わ)

ベッドに寝ている主人の顔を見て、そう確信した。東京の郊外にも雪が舞っている。主治医からは、今夜が峠だろうと言われていた。肺炎の高熱で干からびてしまった唇から、うわ言がもれてくる。何をしゃべっているのかわからないが、駅名だけはどうか聞き取ることができた。

広島の子村の出身だと言っていた。もう実家は没落して、家屋敷も人手に渡って残っていない、ふるさ

どろ書房 委託販売コーナー

★「天馬書林」

新書の教養書や人生指南本、ノンフィクションが充実。

★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中！



このことには口の重い主人が話してくれたのはそれだけだ。

(お父さんと会う前から、わたしはあなたのファンだった……)

文学少女だったわたしは、同人誌に載っていたあなたの作品を読んでたちまち魅せられた。とても暗い物語なのだが、書いている人の純粹さが伝わってきた。冷徹な文章に心が凍てついたが、何日かすると凍傷が癒えるかのように、胸が熱く疼いてくる。何度も読み返した。

お見合いの相手として、あの人の

名前を聞いたときは驚いた。同姓同名の人かと思ったが、会ってみて本人だと確信した。ペンネームを使うような、いや、そんなことを考えるような人ではないのだ。

「もう小説は書かないのですか？」

結婚して一度、尋ねたことがある。

「あんなものは一度だけでコリゴリだ。友だちに、どうしてもというから仕方なく書いたが、どんなに隠そうとしても自分の内面が剥き出しになってしまう。怖いもんだね」

あの男はやめておいた方がいい、結婚話が決まってから、そう忠告してくれる人がいた。主人と同郷だったという人物は、主人の心中事件のことを詳しく知っていた。

ふたりで雪山に入って睡眠薬を飲んだ。山狩りの捜索隊に発見されたときには、固く握りあった二人の手は、さらに紐でくくられていたという。男の方だけが生き残った。相手の女性が人妻だったことが、この心中事件をさらにセンサーショナルなものにした。

「みわ……」

主人が女性の名前を口にした。旅路が終わったのだ。みわという女性と、再会することができたのだと思っ

(いいんですよ。あなたと一緒に暮らせてわたしは幸せでした。もう充分です)

いくら夫婦でも、魂まではつなぎとめておくことはできない。

安心したように、主人の顔が穏やかになった。

「ありがとう……、さようなら、あなた」

涙が出て止まらない。我慢できずに手を握った。氷のように冷たい手だった。

どれだけそうしていただろう。未練なのだろうか。握っている主人の手が、暖かくなっているような気がした。わたしの体温がうつったのだろうか。

ふと視線を感じて顔を上げると、主人がわたしを見つめていた。

「彼女と会ってきたんだ」

わかっていきますとわたしは頷いた。

「みわとお別れしてきたよ。彼女もわかってくれたんだ」

言葉が何も出てこない。うんうんと頷くことしかできなかった。

(おかえりなさい……)

心の中でそういって、ぬくもりを確かめるように、つないでいる手を握りしめた。

まつの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
- ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。

※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL: 090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前(三次側から)※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

< 広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円 >

今月の3冊

どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「神様のパズル」

機本伸司 著 角川春樹事務所

「自分は何故生まれてきたのか?」、青臭い文学青年のような問いかけに真正面から挑んだ異色の SF 小説。留年寸前の僕が担当教授から命じられたのは、不登校の天才少女、穂端沙羅華をゼミに参加させること。気難しい沙羅華に手を焼くが、聴講生の老人の「宇宙はどうやってできたのか?」という素朴な疑問をぶつけると、意外にも興味を示す。そして、ゼミに現れた



た沙羅華が提案した研究テーマが「宇宙の作り方」。果たして、人間は新たな宇宙を作り出すことができるのか? 単位のポイントをかけて、「作れる派」と「作れない派」のデイバートが開始される——。

第3回小松左京賞受賞作。

「アルケミスト」

パウロ・コエーリョ 著 角川書店

夢を旅した少年の副題。アルケミストとは、錬金術師のこと。羊飼いの少年は、ある教会の廃墟で、同じ夢を二度見る。見知らぬ子供に導かれてエジプトのピラミッドに宝物を探しに行く夢だ。その夢を信じて、少年はすべての羊を売却して海を渡る。

「傷つくの恐れることは、実際に傷つくよりもつらいものだ」と、おまえの心に言ってやるがよい。

夢を追及している時は、心は決して傷つかない」、錬金術師の言葉が少年を勇気づける。本当の自分を知るためには外の世界を知る必要がある——、壮大なロマンを旅する少年(=読者)は最後にそのことに気づくのだ。ブラジルの作家による世界的ベストセラー。



「雨の新橋裏通り」

國井克彦 著 創樹社

サブタイトルの「アダルトショップの四千日」に興味津々。食えない詩人の著者が、新聞の求人広告で就職したのが「オレンジ園」、看板に「ラブ・ショップ」とあるアダルトショップだった。47歳の新人が配属されたのが店舗の2階で、同性愛関連の商品がたくさん展示されている。そこは「恋人」を探すための出会いの場でもあった……。



腰のフラメンコ、ジュジュ、ヤングマン、桃子ちゃん。熊ん子、ターザン、ブラック・インディアン。ユニークな名前の製品が次々と登場。男女に関係なく、高額な商品がどんどん売れる。有名人の常連さんも多い。マル秘のエピソードが満載の大人のファンタジー。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣(店内専用通貨)であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

どらくる俳壇

もう行けぬ山岳写真初暦

近藤 昌平

馬鈴薯の芽吹く力や十二月

原 博己

父と子の短き電話十二月

片岡 正人

音もなく過疎の里山雪が降る

隆 愚

冨こがらしを十字に裂きて異人墓地

赤川 冬人

投稿&寄稿

「頻尿の原因は？」 M・A

さぶいねえ、が合言葉のように
なっていました。今年の冬は速足で、
冷え込みも厳しいような気がする。
これぐらいで弱音を吐いていては、
零下何十度という酷寒の地で暮らし
ている人に怒られそうだが、この広
島の県北の地は、全国でもいちばん
寒い場所ではないかと私はひそかに
思っている。

※投句を歓迎します。

もちろん、気温ではない。室温で
ある。北海道や東北の地であれば、
暖房のための設備が整っている。そ
うしなければ凍え死んでしまう。し
かし、この県北の冬は、我慢すれば
どうにかしのげる寒さ。つまり、中
途半端な寒さなのである。だから、
隙間風が入ってくる家屋の中で、炬
燵に入ってひたすら寒さに耐えてい
る。

以前、テレビの番組で、病気別の
都道府県ランキングという企画を

やっていた。例えば、糖尿病の罹患
率がいちばん低い県は高知県。土佐
は酒の多いというイメージで、
意外な感じがしたが、理由はやはり
お酒で、酒席ではツマミから食べて
ご飯はシメというパターンが多い。
これが糖質の吸収を抑えるのではな
いか、そういう考察だった。

頻尿の項目で、人口比の頻尿の患
者数がいちばん少なかったのが群馬
県。その検証を見て思わず笑ってし
まった。群馬県は全国でいちばんマ
イカー率が高い県で、車で出かける
事が多いのだという。車だと、気軽
にトイレに行くことができない。そ
れで膀胱が鍛えられて、頻尿になる
人が少ない……、ホンマかいなと思
わずツツコミを入れてしまった。

おしっこを我慢しすぎれば、膀胱
炎の危険があると何かの記事で読ん
だ記憶がある。不要なものさっさと
排泄してすっきりした方が体には
良い、単純にそう思う。しかし、頻
尿は膀胱に尿が溜まっていないのに
何度もトイレに行きたくなる病なの
で、それなら少しぐらい我慢して膀
胱を鍛えた方がいいのかもしれない
……、そんな結論だったように記憶
している。

そして、頻尿で不名誉な一位に

なってしまったのが広島県。とくに
番組での検証はなかったが、私は室
温が低いせいではないかと推測して
いる。冷えるとおしっこが近くなる。
高齢者は辛いはずだ。冷え性になる
人も多いだろう。

車で走っていると、新しい家屋が
目につく。派手な色彩のプレハブ工
法で、屋根瓦のどっしりした農家の
家に比べて頼りなくて味気ないが、
断熱材を入れて冷暖房が良く効くよ
うに設計されているのだろう。それ
だと、冬でも寒くない室温が手軽に
維持できる。景観的にはどうかと思
うが、頻尿には効果あり？



庄原歴史探訪

「幻の神福寺」じんぶくじ 第一回 文責・寺岡隆行

現庄原市宮内町（昔の備後国三上郡宮内村）に幻（調査が進んでいない）の古代寺院神福寺があったと伝えられています。その証拠となるものを説明してみましよう。

1. 「芸藩通志」（頼杏平らが、文政八年（一八二五年）に編集した、地方の出来事を記した書物）に、「廃神福寺、宮内村にあり。むかし、当村八幡宮の別当なりし、今、毘沙門堂あり。」の記述があります。

「別当」とは、「別当寺」の事で、神仏習合説に基づいて、神社に設けられた神宮寺の事です。

〔※神仏習合説は神仏垂迹説すいじやくあるいは、神仏同体説ともいう。我が国固有の神の信仰と仏教信仰とを融合調和すること、神仏混淆ともいい、奈良時代に始まったもので、お宮とお寺を一か所に建てた。例として、鳥取県の大山神社と大山寺は現在も隣り合わせで現存しています。明治維新以後、政府が祭政一致の方針に基づき、神仏分離を唱え、神仏習合

止した。〕

三上郡宮内村の神福寺と前後して建立された寺院としては、備後国の三谿郡の寺町廃寺、上山手廃寺。三次郡の寺戸廃寺。恵蘇郡の東光寺。世羅郡の康徳寺廃寺。安芸国の沼田郡の横見廃寺。高宮郡の明官地廃寺。備中国の賀夜郡の大崎廃寺、柏寺廃寺。出雲国の神門郡の神門寺廃寺。などがあります。一郡一寺の様相が強い事から国分寺にあやかっって、一般的に「郡寺」とか「郷寺」といわれていますが、正しいものかどうかは解りません。

これらの寺院から出土した軒丸瓦の文様から、今のところ、三谷寺（寺町廃寺）が一番古いとされています。瓦を焼いた窯跡は、三次市では和知町の大当瓦窯跡、庄原市では上原町の亀井尻瓦窯跡が確認されています。何故、この地方にこんな寺院が建立されたかは、後述する事にします。

では、どの位の規模の寺院であったかを述べてみましょう。

国の史跡に指定されている寺町廃寺についてみますと、南門から入り、中門を通って入ると正面に講堂があり、向かって右に塔（三重塔）があり、左に金堂があり、講堂の東側には東回廊、西側には西回廊があったと発掘調査の結果が報告されています。

これは、奈良の法起寺式寺院の様式です。法隆寺は金堂が右で、塔が左と位置が左右反対になっています。法起寺は法隆寺の少し東にあります。神福寺もこの寺町廃寺と同様に、

法起寺式の様式だったのだろうといわれています。

神福寺建立の年代は、白鳳時代（六四五年の大化の改新から七一〇年の奈良平城京への遷都までの六五年間）です。寺町廃寺が建立された翌年の六六八年に建立されたと発表されています。

広さについては、国の史跡に指定された寺町廃寺が九六七九平方メートルですから、神福寺も同じくらいの広さだろうと思われまます。

（次号に続く）



寺町廃寺（推定：三谷寺）復元模型
広島県立歴史博物館蔵

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

一 硬式テニス参加者募集 一

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

陶芸 教室

洲澤陶芸教室 (電動ロクロほか成形全般)

- ・県大前教室 (0824-72-0686) 月謝 2,000 円
金曜日 (毎週) 午後 1 時~4 時 30 分
 - ・敷信自治センター教室 (0824-72-0571) 月謝 1,000 円
木曜日 (第二、第四) 午後 1 時~4 時 30 分
 - ・庄原小学校前教室 (0824-72-1074) 月謝 1,000 円 (月2回)
月曜日~水曜日 (希望する日) 午後 1 時~4 時 30 分
- ※詳しくはお電話ください。0824-72-1074 (夜間を希望)
洲澤悦二 (庄原市西本町 2-11-19)

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「僕らは みんな 生きている」(絵画展)

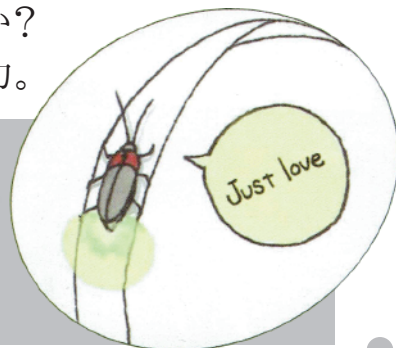
身近にいる昆虫たちのメッセージに耳を傾けてみませんか?
廿日市市在住の中嶋将史さんのほのぼのとした絵が魅力。

会場：庄原市立比和自然科学博物館地学分館

9:00~17:00 (0824-85-3005)

期間：平成30年2月26日まで(1月4日まで休館)

入館料：300円(中学生以下無料)



編集後記

◇あけましておめでと
うございます。どらく
ろあが新年を迎えるの
はこれが二回目です。
本年もよろしくお願
いします。今年も、新
たな出会いを楽しみに
しています。

◇図書館員ノート、今回で
七回目になります。三次市
立図書館で勤務している方、全
員に書いていただいたこと
になります。楽しみにして
いる読者の多い連載ですが、残念
ですが、今回でいったん終
了とさせていただきます。あり
がとうございました。

◇今回スタートした「新名所
案内」も含めて、「群星伝」、「現
代小史」ともに登場してい
ただく方を募集しています。自
薦、他薦、情報提供をお願
いします。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@sannet.ne.jp

年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン：ROUTE183

協賛：九日市愛好会

第204回

「庄原九日市」

平成30年

1月9日 (火) 9:00~13:00

庄原九日市とは？

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)。
昭和年代の戦争で途絶えていた市を、市街地活性化ボランティア活動として空き店舗などを活用し2001年に復活。

TOPICS

★市民ギャラリー「アート多愛夢」

→植物の細密画作品展

1月8日(月)~10(水) 10時~16時

★風龍

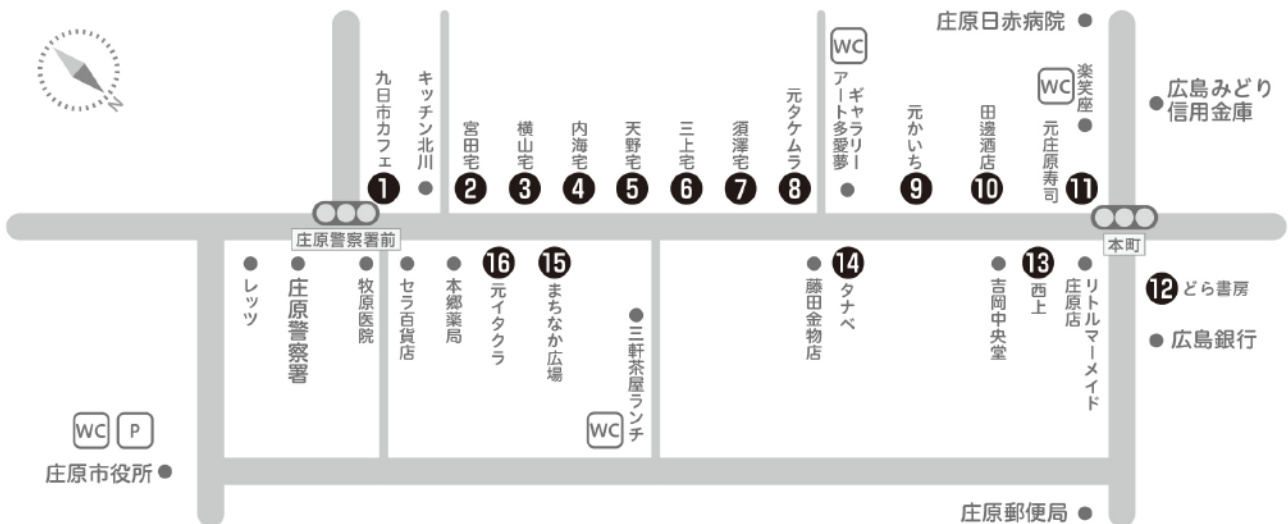
→九日市スペシャル・餃子200円

★楽笑座で「まかない食堂」「うた声喫茶」開催

★どら書房

→月曜日と火曜日はお休み

出店配置図



① お休み

② ギャラリー三村

③ 昭助
とらぢ
二八そば加工所
アーミッシュ
さだっさ
リトルマーメイド
健康企画グループ

④ 砂田海産
郷屋

⑤ ちくちくはうす玉手箱
工房アム
かぐや姫

⑥ めだかの学校
ROOM OF KEIKO

⑦ 農楽会

⑧ タツミ矢 田崎屋 克國水産

⑨ 休み

⑩ 休み

⑪ 休み

⑫ 休み

⑬ 山本水産
くんえん工房 香豚
ハナヒラタケ広島
庄の助栄泉

⑭ 開盛社

⑮ 佐藤園芸
宮川屋

⑯ お福
どんぐりへず

出店申込みは、【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース1,000円~ 九日市愛好会事務局
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10楽笑座内 TEL/FAX (0824)72-8285

ホームページ
<http://www.kunchi-ichi.jp>

